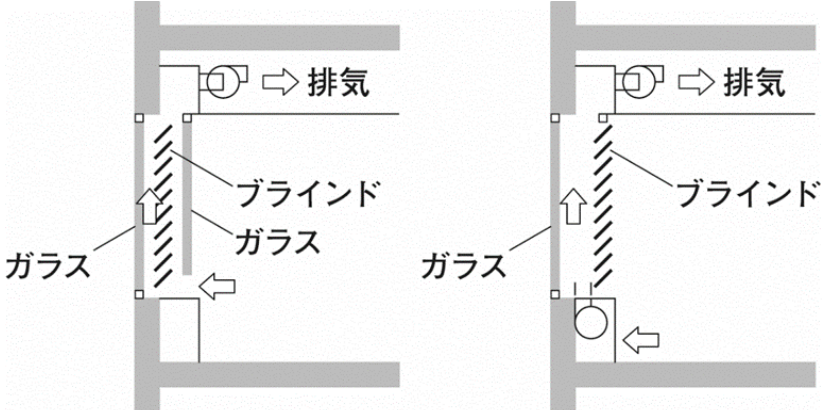


対 策 名	ペリメータレス空調システム
対 策 タ イ プ	設備導入
対 象 業 種	共通要素設備
対 象 工 程 等	空調設備
対象技術の概要	<p>【目的】</p> <p>中規模以上の建物では、インテリア用の空調機で内部負荷を除去するとともに、ペリメータに設置するファンコイルユニットやウォールスルーヒートポンプなどによって、外壁からの電熱負荷や日射負荷に対処している。</p> <p>ガラスを含めた外壁の熱性能（日射遮蔽性能、断熱性能など）を向上させ、ペリメータ部の負荷および方位による負荷変動を低減させ、インテリアの空調機だけでペリメータ領域を含めて快適条件に維持することを目的とする。</p> <p>外壁からペリメータ部への熱負荷を削減するだけでなく、ペリメータ空調がないため、インテリア空調とのミキシングロス、コールドドラフトも起こりにくく、省エネ性が高い。</p> <p>【概要】</p> <p>建物の窓周辺の空気流を利用して冷暖房の熱負荷を削減する。</p> <p>(i) 二重窓方式 ガラス面を二重にして窓下より室内空気を吸い込み、それを上部から外部あるいは天井内に排気する。</p> <p>(ii) 「エアバリア方式」：ガラス面とブラインドの間に空気の流れをつくる簡便な方式</p>  <p style="text-align: center;">図 1. エアフローウィンドウの構造</p>
実 施 上 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・改修にコストはかかるが、空調全体のランニングコストが削減される。外壁をリニューアルするなどの大掛かりな対策に比べればコストは抑えられる。 ・ペリメータレス空調にはこの他にも冬は窓下側から廃棄する方式等もあり、費用と効果を比較して方式を選択する必要がある。